

農水省令和4年度補正予算及び令和5年度当初予算「戦略的スマート農業技術の開発・改良」

研究代表者（所属）：大山克己（大阪公大・現代システム科学研究科）

発表タイトル：醸造用ブドウ生産向け小型電動ロボットの開発

○大山克己¹

所属： 1 大阪公大・現代システム科学研究科

キーワード（5ワード程度）：軽労化、小規模圃場、多目的、動線解析、労働生産性

要 旨（300文字程度）

わが国の醸造用ブドウ生産では、小規模圃場が利用されるとともに、多くの作業が手で行われている。このような状況にもかかわらず、労働力不足が深刻な課題となっている。本プロジェクトでは、醸造用ブドウ生産における労働力不足を改善するために、小規模圃場においても作業を支援することのできる小型電動ロボットを開発することとした。本プロジェクトで開発する小型電動ロボットは、圃場における様々な作業（たとえば、運搬、農薬や肥料の散布、除草）を支援するための脱着可能なアタッチメントを備え、多目的に使用できる。現在、小型電動ロボットの開発とともに、それを利用した際の動線解析にもとづいて、労働生産性の向上効果や軽労化効果の把握を目指している。